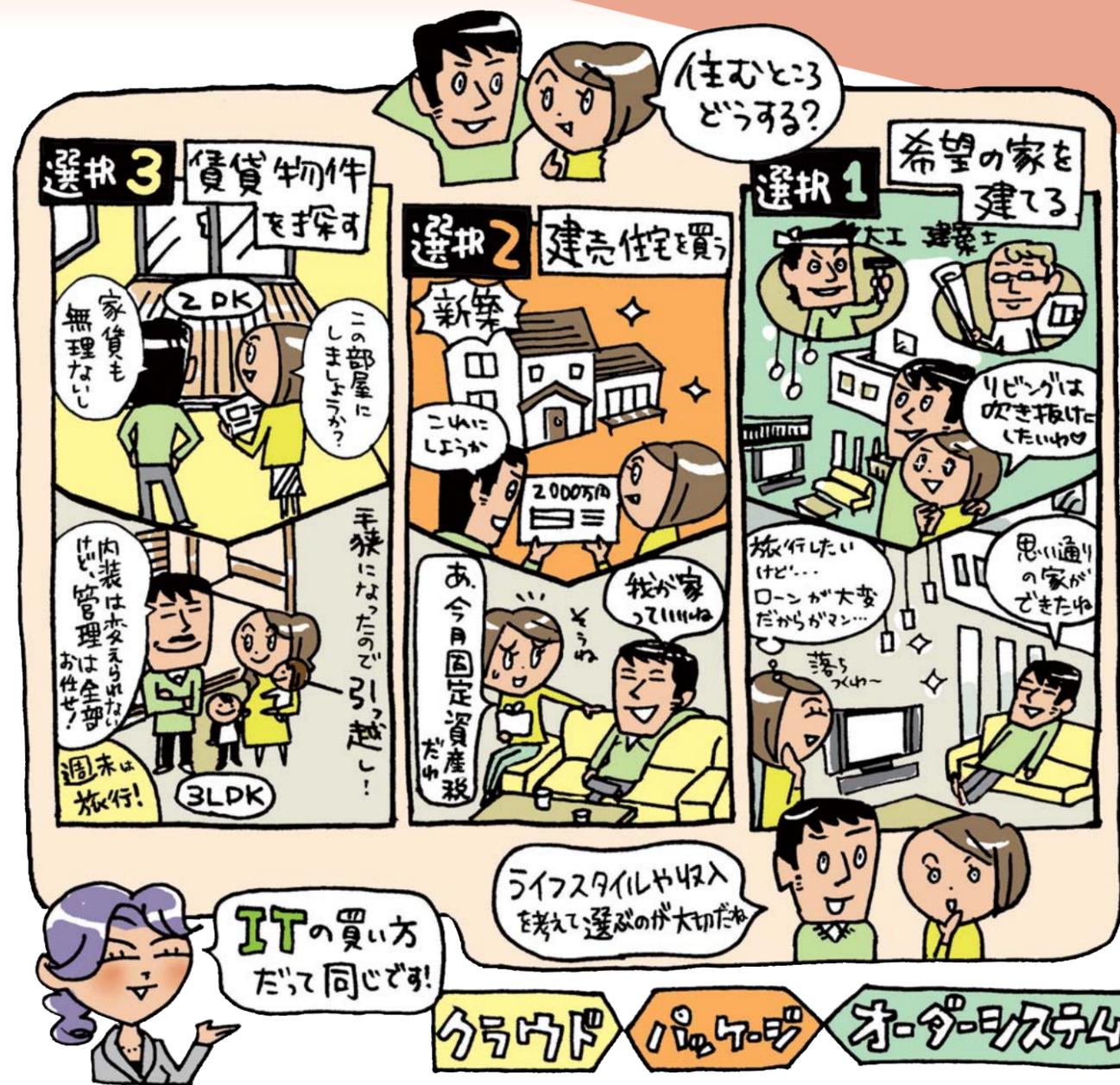


特集

選べる幸運、分かれる命運

—クラウド時代、使いこなせて元が取れるITを探す—

IT導入へのハードルは急速に低くなっている。費用、IT技術、社内のIT担当者などのよくある課題にも解決策が出されている。安く使いやすくなったITと増えた選択肢——それでもまだIT活用を躊躇するか、等身大のITを選び取り入れるか——ここで企業の経営力は大きく差がついてくることだろう。



住まいを探すとき、選択肢は大きく三つ。希望の家を建てるか、建売を買うか、賃貸に住むか。それぞれメリットとデメリットがあり、費用の感覚も異なる。

「我が家を持つこと」は大きな喜びである。しかし住みたい家のイメージを整理せずにオーダー住宅は建てられないし、貯蓄が少ないのに家を買えばローンに追われて生活が苦しくなる。一方で「持つこと」とらわれず、生活の変化に柔軟に対応できる賃貸が良いと考える人もいる。住まいに何を求めるかは人それぞれである。

この考え方はITの活用にも通じるものがある。ITは住宅のように一つを選ぶものではないが、目的に応じて企業自身が判断することによって変わる。

そのITは使いこなせる？費用は適切か

「構想は以前から持っていました。しかし当時のシステムは自社では使いこなせないと導入を見送りました」

沖縄県の大宮工機の宮城社長

は、ITの必要性は認識しつつも、適切な費用・内容のサービスがなく、導入を控えていた。しかし、CIOを兼任する専務の活躍で「等身大のIT」を見つけ出し、現在はICTの活用やCTI、携帯電話の位置情報活用など、様々なITを取り入れ業務改革を進めている。

一方、青森県の小坂工務店は、グループウェアや文書管理システムなど、パッケージソフトの活用で情報共有を推進してきた。しかし、今後、事業の核となるであろう工事進行管理システムは新たに開発。戦略上不可欠なものには時間もお金も投下する。

両社とも従業員規模は50人以下。自社の体力を見ながら、そのITの役割と価値を見定め、投資時期と内容を判断している。

ITの買い方に第三の選択肢

これまでのITは、①希望の家を建てる②自社独自のシステムを開発、③建売を買う④パッケージソフトを購入の二つが主な方法

だった。そのため、まだ、どちらも敷居が高いと感じる企業があった。そこに登場したのが三つ目の方法であるクラウドコンピューティングである。賃貸住宅のように、月額支払い・管理はお任せなどの特徴を持ち、利用人数の増減にもムダなく対応。新しいITの買い方を提案している。

選択肢の増加で、欲しいITを手に入れるチャンスは大きく広がった。IT導入に関わる時間やコストを最小限にし、「いかに使いこなして成果を出すか」にリソースを投入できる。

このことは逆に、ITを使わない言い訳ができなくなったことを意味する。「あの会社もまだだからうちも大丈夫」と安穩としてはいられない。「ITを入れても使いこなせない」そもそもITに逃げ腰」という会社の命運は厳しいものとなるだろう。

本特集では、等身大のIT導入を進める企業の事例、そしてクラウド時代のITサービスを紹介し、ITを使いこなすためのヒントを提供する。

「ITの買い方だって同じです！」

「ライフスタイルや収入を考えて選ぶのが大切だね」

クラウド PaaS SaaS